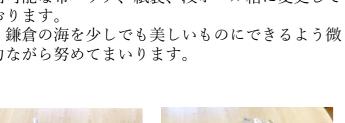
医療材料供給時の袋について

ドクターゴンは本部が宮古島、当院が鎌倉とど ちらも海と深いつながりがある場所に診療所を開 設しております。持続可能な開発目標(SDGs) にも海の豊さを守ることが掲げられておりますが、 ドクターゴンでも微力ながら力になれることを考 えました。

ビニール袋ごみの削減の為、当院でも患者様に お渡ししておりました医療材料供給の包袋を再利 用可能な布バッグ、紙袋、段ボール箱に変更して おります。

力ながら努めてまいります。













鎌倉市HPより 母乳しかのまない赤ちゃんのシロナガスクジラの 胃からプラスチックごみが発見されています。



母乳しか飲まないのに…。 それだけゴミが多いんだね

ビニール袋でそのままお渡ししていたのを、 布袋に変更し、医療材料のみのお渡しへ変更に なりました。

ご自宅に医療材料を保管できる場所や入れ物が ない方には箱を配布しております。 左の画像の様に配布した医療材料を箱にいれて

当院からのお知らせ

在宅療養中の患者様・ご家族様の コロナワクチン4回目接種について

政府より4回目接種について情報が公開されました。 これにより、当院でも4回目接種希望を診察時に確 認しております。

接種開始は6月下旬~7月の予定です。

対象者は、3回目接種から5ヶ月経過している方で ①60歳以上の方

②18歳以上で基礎疾患を有する方、その他重症化 リスクが高いと医師が認める方

接種ご希望の方、迷われている方、診察時に医師と ご相談をお願いいたします。

8月から医療保険証変わります!

今年の7月末で国民健康保険証・後期高齢者証の 期限が切れます。届き次第、診察時にスタッフへご 提示をお願いいたします。

診療科:外科·内科·訪問診療

保管をお願いいたします。

担当医師については、当院ホームページ にてご確認をお願いいたします。

http://www.drgon.net/kamakura/



窓口受付時間	月	火	水	木	金	土	日·祝
9:00~11:30	0	0	*	0	0	休	休
14:00~16:30%	X	X	*	0%	X	休	休

★水曜日は予約制となっております。お電話ください。 ※木曜日午後は16時までです。ご了承ください。

7 0467-32-5230_(ft)

当院メールアドレス(gon@aria.ocn.ne.jp)へご 連絡いただいたお返事は、遅くなる場合があります。 夜間・土日は次の日の確認となります。お急ぎの場 合はお電話ください。



広報紙 GON



由比ガ浜海岸にて撮影

4月から新しい職員が入職しました どうぞよろしくお願いいたします。



やまだ じゅんや 医師 純也 ШШ



看護師

1101

発行: 医療法人鳥伝白川会

ドクターゴン鎌倉診療所

〒248-0027 鎌倉市笛田4-25-2アスクレピオン鎌倉B-1 TEL 0467-32-5230 FAX 0467-33-3376 URL http://www.drgon.net/kamakura/

編集:事務 四竈 桐生

在宅医療の影の立役者 - ドライバー職-

在宅医療は医師が患者様のお宅へ訪問し診察を行います。その際に欠かせないのが、ドライバーです。ひとりの医師で日に10~15件のお宅をまわる上で、カルテ入力を行う時間は次の患者様のお宅に行くまでの移動時間を利用しております。医師が診察をし処方、関係各所への連絡などをスムーズに行う為にも、ドライバーは大切な職種となっています。

当院では医師、看護師、ドライバーの3人体制で訪問に伺っております。日々安全運転を 心がけるドライバー業務を紹介します!

今日も一日安全に患者様宅を訪問します!!

朝

当日に訪問する患者さんの住所をナビに登録します。

暑い季節は車内の気温が上がる為、薬品を冷やすために保冷剤を各車へ準備をし、出発までに時間がある場合は、ガソリンの残量を確認し適宜補給も行います。



ナビ入力をしています



載せた医材を整えてます





保冷剤は一台につき3-4個載せています

出発

鎌倉の道は細くて複雑ですが、安全運転と駐車 位置に気をつけて訪問します。

車内で心地よく過ごせるよう配慮も忘れません。医師がカルテを 記入できるよう道の段差などにも気をつけています。また、診察 中は車内で待機し、いつでも動かせる状態にしています。その際 に次の訪問宅へのルートや道路の混雑状況などの確認作業も行っ ております。



一 車内清掃・消毒、診療道具などの引き上げ作業をします。 他のスタッフが使用した車両のガソリンの残量もチェックし、必要 に応じて補給しに行きます。その他にも洗車など行い、常に診療車 を万全な状態にしています。



当院所持の車両は全部で10台あります



左から

小林龍一

ふみたたつお 文田辰雄

いとうみく 伊藤美紅

やまもとしんや山本普也

在宅医療と消化器病 第2回

なぜ医師になろうとしたのですか?という問いをこの職業をやっていますとたまに問われることがあります。高校生を卒業するころに時間を巻き戻し考えれば、当時父親の転勤についてオーストラリアのブリスベンに居た頃、千葉の田舎で開業医をしていた祖父の具合が悪くなっていき、父親が継がなかったその職業に「なってみる」と祖父に伝えたことが動機と言えば動機でしょうか。オーストラリアの学期は1月から始まり、12月に終わるため(卒業生は11月に終了)、留年せずに翌年の入学試験を受けられる国立の医学部は3か所のみで、内申を提出し、1か所のみ帰国子女枠の受験をさせてくれた佐賀医科大学(現佐賀大学医学部)に入学することになりました(祖父は合格を報告した後に間もなく他界)。卒業後は親元に近いところがよいだろうと考え東京に移り、外科、特に消化器病に関連の深い領域に進むことになったのです。

少々前置きが長くなりました。在宅医療の一つの大きな使命として、消化器癌の終末 期医療を支えているところがあると思います。ドクターゴン鎌倉診療所のデータをみて いきますと、ご自宅で最期まで過ごして当院でお看取りをする方の大多数は老衰なので すが、それ以外の多くを消化器癌の末期で亡くなる方が占めています。小生が大学病院 などの急性期病床に勤めていた時には、次から次へと癌や急性期疾患で手術予定の方々 でベッドが次から次へと埋まっていき、そのベッドは国策もあって減らされていき、必 然的に治療の手段の無くなった癌終末期の方々に後方支援病院への転院をお願いしたり、 緩和ケア病棟(ホスピスなど)への転院をお願いしたり、在宅の先生達に自宅退院の支 援をお願いするようになっておりました。

そんな矢先、以前から在宅医療に深く携わってこられた泰川恵吾先生(ドクターゴン診療所 理事長)が私の所属していた外科の同門(途中から救命救急センターが派生)であることは知っており、毎年外科が主催していた「例会」という研究会でも泰川先生の発表を聞く機会があり、私のような「外科手術・術後管理・研究・教育マシーン」でも、「在宅医療で患者さん達に貢献することができます!」と教えてもらってはいたものの、実際に鎌倉に来て在宅の患者さん達にお会いするまでははっきりとしたイメージをつかめずにいました。自宅退院がかなわず病院で亡くなる方々を多数目にしながら、「きっとお家に帰りたかったのではないのか」と漠然と思っていたというのが正直なところだったと思います。

それからその在宅医療に遭遇する日は意外にも突然、やってきたのです。

あまの くにひこ 天野 久仁彦 医師

医学博士 日本外科学会 認定医・専門医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医

